
デジモン×リボーン ミーとボンゴレデーチモは九人目と十人目の選ばれし子供ですー

水月穂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモン×リボーン ミーとボンゴレデーチモは九人目と十人目の選ばれし子供ですー

【Nコード】

N3832Z

【作者名】

水月穂

【あらすじ】

ある日、フランとツナはある女に嵌められた…

味方はザンザス、アルコバレーノ、黒曜組だけ…

毎日蹴られたり殴られたりの繰り返し…

そんなある日、ヴェルデの実験の所為で二人とも頭脳は元のままだけど身体は二年生になってしまった…

更に数日後、サマーキャンプに急遽参加する事になってしまった二人…

そのときとんでもない事件に巻き込まれてしまっ!!
どうなる!?!?

フランとマーモンは女の子です

マーモンはスクアード、フランはベルに絶賛片思い中

プロローグ フラン編（前書き）

やっちやっただぜ

掛け持ちを

プロローグ フラン編

フランク side

突然ですが、ミーはボスとマーモン先輩以外のヴァリアーに虐められてますー…

理由は…ミーが邪魔だからそうですー…

嵌められたあの日から、ミーの日常生活は一編しましたー

いつも殴られて、蹴られて…ナイフ投げられて…まあ、これはいつもの事なんですがー…でも…いつもと違う…憎しみの籠った投ナイフ…

これがミーの運命なんですかー？

幾らミーの運命さだめでも…辛いですよー…

信頼してたのにー…

そんなある日…ミーはボスに呼ばれましたー

コンコン

フラン「ボスー？入りますよー？」

ザンザス「…ああ」

フラン「それで…ミーに用事とは？」

ザンザス「フラン…お前は一時的にヴァリアーを脱会し、ジャツポ
ーネに行け」

フラン「え…？」

ザンザス「…すまねえ…これ以上お前を此処に置くと、お前の心が
崩壊してしまう…」

フラン「っ…」

ザンザス「その代わりに…マーモンも連れてけ」

フラン「え？それじゃあ術師が必要な任務は一体どうするんですか
ー？」

ザンザス「そんなの霧部隊に任せる…リポーンから聞いた話したが
沢田綱吉も同じ状況らしい…」

フラン「マジですかー…」

ザンザス「ああ…あくまで一時的脱会だ…カス共の誤解が解けたら
戻って来い…」

フラン「長期任務とんでもいいんですかー？」

ザンザス「ああ…それでも構わない…分かったら行け…カス」

フラン「s.i」

はあ…ボス是不器用ですからねー…まあ、不器用な優しさ有難うございますー…

本当にずっと此処にいたらいつミーの心が壊れるか分かりませんか
らねー…

ベル先輩…

マーモン「ボスとの話し終わった？」

フラン「はいー」

マーモン「じゃあ準備して？ベル達に見つからない様に行くから」

フラン「なんでですかー？」

マーモン「ベル達が君の脱会を喜ぶところ、見たいのかい？」

フラン「遠慮させていただきますー」

マーモン「でしょ？さあ、行くよ」

フラン「あ、待ってくださいー」

プロローグ フラン編（後書き）

次回…プロローグ ツナ編

プロローグ ツナ編

ツナside

今、俺は虐められてる…

理由は告白されたけど…断ったから…

…だから嵌められた

ねえ…皆…真実に気付いてよ…

俺達の絆ははそんなに簡単に壊れる物だったの？

誰か…教えてよ…

そんなある日、リボーンからこう告げられた

リボーン「ツナ…引越しするぞ」

ツナ「はあ！？…どういう事だよ！…リボーン！…」

リボーン「これ以上此処に留まるとお前の心が壊れる…」

ツナ「リボーン…」

リボーン「もう家は用意してある…アルコバレーノ全員いるぞ」

ツナ「マジかよ…」

リボーン「それに…今、お前と同じ状況の奴もいるらしいぞ」

ツナ「え!？」

リボーン「マーモンがそう言ってたぞ」

ツナ「という事はヴァリアー!？」

リボーン「ヴァリアーと言っても一番大人しい奴だけだな」

大人しい?…マーモンが連れてくるって言ってたからマーモンは違
うだろうし…

ベルフェゴールは…あれは大人しいとは言わないな；

スクアードは…逆に煩い…；

ルツスーリアも大人しくは無い…

レヴィは…あんなオッサンを虐める訳無いか(笑)

リボーン(ツナが黒いな…) 読心術

ツナ「じゃあ…フランちゃん？」

リボーン「そうだぞ…ツナと同じくらいにダメージを受けてるか
ら、ザンザスが一時的に脱会させてこっちに寄越したんだ」

ツナ「そうなんだ…そういえば家はどうするの?」

リボーン「大丈夫だぞ 既にお台場を買ってあるぞ」

ツナ「そうなんだ…」

リボーン「分かっただらさっさと荷物を纏めやがれ」

ゲシ

ツナ「わ、分かったよ」

リボーンは俺を蹴った…でも、この蹴りは憎しみじゃなく、優しさが籠っていた…

プロローグ ツナ編（後書き）

次回…お台場の家

悪女設定 標的？ 真実に気付いた嵐達（前書き）

悪女設定の後にフランやツナが去ってその頃嵐の守護者達は…が書かれてるよ

悪女設定 標的？ 真実に気付いた嵐達

田中 真奈美

性別…女

武器…ナイフ

属性…雲

ヴァリアー雲の守護者

フランとマーモンを嵌めようとしたが結果は失敗に終わり、フランだけが嫌われた

今はスクアーロの彼女

ヴァリアーを乗っ取るという野望がある

超ぶりっ子

ザンザスが思い通りに行かない

ザンザスからすればさっさと追い出したいが相手が同盟ファミリーの娘なので追い出せない

デジタルファミリーの娘

田中 麻奈

性別…女

武器…鞭

属性…大空

ボンゴレの大空の守護者

ツナに告白したが失敗に終わり、ツナを嵌めた

麻奈「そう？じゃあまた明日ねえ」

並盛商店街

獄寺「ん？あれは…沢田のお母さん！！」

奈々「あら？獄寺君」

獄寺「あれ？引越したはずじゃ？」

奈々「それがね、なんかリボン君と一緒にどっかに行っちゃったのよ…」

獄寺「そうなんすか…」

奈々「じゃあまたね」

獄寺「はい！！」

てつきり家族皆で引越したと思ったんだが…沢田とリボンさんだけか…

ん？あれは…麻奈？

麻奈「ふふ…も…皆麻奈の思い通りに動いてくれて…遂にツナ君をこの並盛町から追い出せたわ これでボンゴレは…麻奈達、デジタルファミリーの物だわ」

何！？皆あいつの仕業だったのか！？

くっそ！！十代目を早く探さなきゃ！！！！

- - -
- - -
- - -

ベルside

あれ？カエルとマーモンがいねえな…

なんか急に召集が掛かったけど…

ザンザス「…集まったか…」

スクアアロ「ヴオオオオイ！！なんだあ！？急に召集掛けやがって！！」

ザンザス「…フランが脱会した…」

スクアアロ「ふん！！真奈美を虐めるからこつなるんだ！！」

ふーん「カエルが辞めたんだ…」

…嬉しいはずなのに…なんだ？心にポツカリ穴が出来たみてえだ…

ザンザス「それと…マーモンは長期任務でしばらく帰ってこねえ…」

マーモンがねえ…

ザンザス「それだけだ…」

廊下

…なんだろう…この気持ち…全然分からない…

哀しい…のか？

ありえない…だってあいつは姫を虐めたんだ…！！

なんでこんなに哀しいんだ？

…俺がカエルを…フランを好きだったから？

分からない…

ん？あれは姫？

真奈美「ふふ…いい気味…しばらくマーモンも帰ってこないみたいだし…今の内にボスも真奈美の物にしてやるんだからあ」

なっ…あいつ…俺達を騙してたのか！？

ししっ…王子を騙すとか生意気だし…おっと…その前にフランに謝
んねえとな

…あんまり乗り気じゃないがボスなら何か知ってるかも

ボスの部屋

コンコン

ベル「ボス…入るぜ」

ガチャ

ザンザス「…なんだ…」

ベル「…ボス…俺…真実に気付いたんだ…」

ザンザス「…」

ベル「俺…フランに謝りたい!!」

ザンザス「…フランはジャツポーネのお台場という所にいる…ただし…あれだけの事をして来たんだ…あいつは許さないと思うぞ…」

ベル「っ!?!でも…謝りたいんだ!!」

ザンザス「…なら…さっさと探して謝って…帰って来い!!」

ベル「!!…Si」

ザンザス「それと…沢田綱吉とアルコバレーノ達もお台場で一緒に暮らしている…もしかすると…そいつらの誰かにフランを取ら（ビ
ューン…早え」

続く

悪女設定 標的？ 真実に気付いた嵐達（後書き）

ザンザスのキャラ崩壊サーセンWWW

次回…お台場の家

小さくなったカエルとマグロ

新しい学校

サ エさんでは無いけど…これくらいやるかな？

標的？ 新しい家と事件と学校と！？

フランside

お台場空港

フラン「眠いですー」

マーモン「ムム…君…ジャッポーネに来て第一声がそれかい？」

フラン「完全時差ボケですー」

マーモン「君ねえ…仮にも世界各地に出張に行く暗殺部隊がなんで時差ボケするのさ…」

フラン「だってジャッポーネに来るのは百蘭を倒して以来ですしー、ジャッポーネには出張はあんま無いですしー…長い休日を利用してもそんな長い休日は暗殺部隊には無い上にミーは別にこれと言った用事ジャッポーネには無いですしー」

マーモン「じゃあ君の師匠に会いに行けばいいじゃない…」

フラン「クローム姉さんに会いに行くのはいいとしてなんでミーがナッポーに会いに行かなきゃいけないんですかー？」

マーモン「…仮にも君の師匠だよな？」

フラン「ミーはあんまり認めたくありませんー…第一ミーは何時の間にか弟子にされてたんですよー」

マーモン「……………」

????「あ、いたいた」

マーモン「ムム…君は沢田綱吉とリボーン」

フラン「あー…迎えに来たんですかー…久しぶりですー…デーチモ」

ツナ「やあ…リボーンから聞いたよ…君も大変だったね」

…デーチモ…何処と無く寂しそうで…哀しそうですー

いつもの元気がないですー…

目にはあんまり光が無いですしー…

…まあ…ミーも多分光の無い目をしてるんでしょーが…

…これがミー達の運命…
ひだめ

…でも信頼してたのに裏切られたら幾らミーでも辛いですよー…

リボーン「……………」 読心術

ツナside

今空港にフラン達を迎えに来てる

フラン…いつも以上に哀しい目…そんなでもって無表情…まあ…これ

はいつもの事なんだけど…いつもより…哀しく感じ取れる…

…大丈夫…かな？

…リボーンから聞いたけど…フランはベルフェゴールの事が好きらしい…

好きな人に暴力…はまあいつも振られてるみたいだけど…でも憎しみが籠ってる暴力は幾らフランでも辛いだろうな…

…俺でも京子ちゃんは暴力は振ったりしないけど…信じてもらえなかった…それだけでも辛いのに…

フランはもつと辛いだろうな…

…こんな俺でもフランの支えになってやりたいな…

フランと一緒に絆を取り戻そう！！

そして…皆に真実を伝えるんだ！！

マーモン（ふーん…覚悟があるね…） 読心術？

リボーン「……………（ニツ）」 読心術

Flan side

フラン「お台場は都会ですねー」

マーモン「それ、田舎者の台詞だよ…」

フラン「実際田舎者だしー」

マーモン「そういえば君を見つけたのはフランスの田舎町だったね」

フラン「いやー…ミーの故郷で幻覚の修行を受けてた所に墮王子＆アホのロン毛が乱入して修行は目茶目茶でー…その上ナツポーがなんか修行の総仕上げだとかでー、墮王子達から幻覚を使って逃げる破目になってー、ミーが負けてー、仕舞いには『クフフ…まだまだ修行が足りませんね…』ですよー？つたく…ふざけんじゃねーよ…ナツポーが…」

ツナ「あ、でも、骸はギリギリまで反対はしてたけどね」

フラン「えー？」

ツナ「ほら、一応フランも女の子だからさ…」

フラン「一応ってなんですかー？」

リポーン「見た目はいいんだが性格や口調に難ありだからな…フランは」

フラン「酷いですー…自称最強のヒットマン（ボン」

リポーン「ほお…そんなに頭ぶち抜かれてーか？」

フラン「ジョーダン、ジョーダンデスヨー…イクラミーデモ、ジュウデアタマ、ツラヌカレタラ、シンジャイマスヨー」

ツナ「片言で言っても説得力無いから…」

マーモン「っていつか六道の三叉槍で大丈夫なんだから銃でも逝けるんじゃない？」

フラン「マーモン先輩！？何言っちゃってるんですかー?!それに字が違いますー!?!」

ツナ（フランって意外と突っ込みスキルが高いな…）　そこ!？

フラン「それにこんな街のど真ん中で騒ぎを起したら警察に捕まっちゃいますよー!?!」

リボーン「ツチ」

舌打ちですかー!?!?

家の前

フラン「…ここが今日から住む家ですかー」

マーモン「ムム…小さいね…」

フラン「これでもかいですよー…ヴァリアーのアジトがでか過ぎるんですー」

ツナ「確かに…」

フラン「ミーはそれ以外にも突っ込みたい所があるんですが…」

ツナ「偶然だね…俺も突っ込みたいよ…」

フラン、ツナ「何ですかー？（なんだよ！！）この表札はー？（表札は！！）」

表札には

沢田 マグロ（デーチモ）

リポーン
復活

コブラ（マーモン先輩）

スカル
骨

カエル（ミー）

風丸（風）

コロネ（コロネロ）

ミル（ラル・ミルチ）

ヴェル（ヴァルデ）

ユニ
星野

アリス（アリア）

リポーン「いいじゃねえか…もしお台場にいると感づかれても気付かねえだろ」

ツナ「いやいや…リポーン、マーモン…ていうかバイパー、スカルは自分の名前を外国語から日本語に直しただけじゃないか！！」

フラン「風に至ってはイズイブの登場人物と化してるじゃないですかー…しかも ナマレンの風は名前じゃなくて苗字ですしー」

ツナ「ねえ…それって伏字の意味無いよ…」

リボーン「ごちゃごちゃ言ってるえでさっさと入りやがれ!!」

はんば無理やり家に入られましたー

ツナ「中也広いね」

フラン「ですねー」

マーモン「そう?」

ツナ「俺等にとっては十分広いよ...」

フラン「...でも...ヴェルデも一緒に住むんですよねー...なんとなく嫌な予感がするんですがー」

ツナ「俺も...」

????(ニヤリ)

バキューン バキューン

ボワン ボワン

へ?何が起きたんでしょー?

煙で前が見えませんー...

あれ?目線が低い?

煙が晴れてきましたー

???「ゲホツ、ゲホツ…なんなんだよもつ!」

あれ?デーチモの声が…なんとなく幼いですー

フラン「あれ?デーチモ…?…ミーの声もなんだか幼いですー」

???「フラン?あれ?目線が低い…俺の声も幼い…」

フラン「やっぱりデーチモですー」

ツナ「何がどうなってるんだ!」

フラン「…こんな事をするのは二人しか思い当たりませんー…」

ツナ「やっぱり?」

フラン、ツナ「出てきてくださいー(出てきなよ…)、リボーン、
ヴェルデ」

リボーン「ニッ)成功だな」

ヴェルデ「ああ」

フラン「ミー達に何やったんですかー?」

リボーン「新しい特殊弾の実験だ」

ツナ「いつになったら元に戻るの?」

ヴェルデ「……………悪魔で実験だからな…何時戻るか分からん」

フラン「…スプラッターな幻覚を見せましょーか？」

リボーン「まあ、待て…もし外で獄寺達に見つかってもその姿なら大丈夫だろ」

ツナ「…確かにそうだけど…」

リボーン「じゃあ明日からお台場小の二年生だ」

ツナ「二年生…」

リボーン「よかったじゃねえか…お前小学生の問題もダメダメだしな」

ツナ「幾ら俺でも二年生の問題は出来るって…」

フラン「これってアルコバレーノみたいに成長しないって事はありませんよねー？」

ヴェルデ「それは大丈夫だ…成長はするように設計してある」

フラン「ならいいんですが」

ヴェルデ（…しかしリボーンも小学生ライフを楽しんでもらって何時もの二人に戻したいとは…変わったな…まあ…沢田の勉強もやり直せるし一石二鳥だな）

次の日

フラン「ZZZZ」

マーモン「起きて…フラン」

フラン「ん？おはよーございますー」

マーモン「お早う…早く着替えて下に下りなよ…今日から学校ですよ？」

フラン「ふぁいー…」

リビング

フラン「おはよーございますー」

ツナ「あ、おはようフラン」

フラン「デーチモが早いですー」

ツナ「なんか早くに目が覚めちゃってさ…後フラン、折角一緒に住んでるんだからデーチモなんて堅苦しい呼び方じゃなくてツナって気楽に呼んで？」

フラン「分かりましたー」

学校

先生「じゃあ私が呼んだら入ってきてね？」

ツナ、フラン「はい(はいー)」

先生「転校生さん、入ってきて」

ガラ

スタスタ

クラス「おおおお」

ツナ「沢田綱吉です…よろしくね」

フラン「ミーはフランですー…」

先生「じゃあ早速質問タイム」

??? (あの子達…なんだか哀しくて…光の無い目をしている…)

クラス「はい!!趣味はなんですか?」

ツナ「俺は…ゲームかな?」

フラン「ミーは読書と…誰かを煽る事ですー」

クラス「じゃあ得意な事はなんですか?」

ツナ「俺は…特に無い…かな?」

フラン「ミーは暗s…勉強と幻z y…手品ですー」

ツナ（あれ？それって幻術の事？）

クラス「凄い！！やって見せて！！」

フラン「後でやってあげますー」

先生「じゃあ八神さんの両脇が空いてるわね…」

ツナ「八神？」

八神「ここだよ^^」

ツナ「よろしく」

フラン「……………」

ツナ「フラン；」

八神「私、八神光、よろしくね^^」

フラン「……………」

ツナ「フラン…」

ヒカリ（やっぱし…この二人…特にフランちゃんの目…光が宿ってない…前の学校でなにかあったのかな？私が…二人に光を取り戻してみせる…！！）

続く

標的？ 新しい家と事件と学校と！？（後書き）

なんか最後無理やり終わらせました；

最終的にヒカリちゃんと出会わせなかったから…

次回！！いよいよ原作突入！！

次回…漂流？冒険の島！

標的？ 漂流？冒険の島！（前書き）

フランク side

あれから妙に八神が絡んで来るんですー

まあ…別にいいですけどー

あれから数日経ちましたー

遂に明日から夏休み！！

リボーン「おい…フランク、ツナ」

フランク「なんですかー？」

嫌な予感がしますー

リボーン「明日子供会のサマーキャンプがあるらしいな」

ツナ「そうみたいだね…」

リボーン「お前たちも行け」

フランク「はあ！？」

リボーン「お前等に拒否権は無いからな」

追加設定：フランは大空以外の属性が使えます

標的？ 漂流？冒険の島！

フランク side

はあ…遂にサマーキャンプの日ですよー…

ー対なんのつもりですかねー

えっとボックス持った…

リング持った…

あとはー…一応食料も持って行きますかー

あ、紅茶も持って行きましょー

キャンプ場

ミー達は一斑になったみたいでー、今自己紹介してますー

フランク「えっとー、はじめましてー、ミーはフランクですー」

ツナ「俺は沢田綱吉」

太一「俺は八神太一だ、五年生だ」

フランク「八神…八神ヒカリオお兄さんですかー」

太一「ヒカリの知り合いか^^」

ツナ「クラスメートです^^」（作り笑）

ヤマト「俺は石田ヤマト、五年だ」

空「私は武之内空、五年生よ^^」

丈「僕は城戸丈、六年だよ」

ミミ「私は太刀川ミミ、四年生よ、よろしくね^^」

光子郎「僕は泉光子郎です、四年生です」

タケル「僕は高石タケル、二年生だよ、よろしくね^^」

フラン「あれー？八神さんはー？」

太一「ああ…ヒカリなら風邪で休みだ」

ツナ「そうなんだ…」

太一（ヒカリの言った通り光の無い目をしてるな…） 太一でも分かるほど…

バスの中

フラン「…ヤバイですー…マーモン先輩とリボーンの幻覚が見えま
すー」

ツナ「残念ながら現実だよ…」

フラン「え？幻術？」

ツナ「現実逃避をしないでよ…」

フラン「ハア）じゃあご一緒に」

ツナ、フラン「なんであんた等がいるんだよ！！（ですかー！？）」

リボーン「チャオツス」

マーモン「やあ…」

フラン「先生ー、なんか妹達が着いて来ましたー」

先生「はあ！？」

フラン「なんかバッグの中に隠れていましたー」

太一「お前等に妹と弟がいたのか」

話しを合わせるーの目線をリボマモに送りましたー

マーモン「ムム…」 金をくれるなら目線

しよーがないですねー…目線

マーモン「そつだよ…」

リボーン「俺は最（黒ツナ）何言ってるのかなあ？リボーン？ハ言

「ツナの弟のリボンだぞ」

ツナが黒いですー；

先生「しょうがない…特別に許可する；」

フラン「マーモンせ（マーモン（今は姉妹関係だから呼び捨てでも構わないよ…）マーモン…なんで着いてきたんですかー？」

マーモン「成り行き」

フラン「そうですかー」

太一「そうだ！…そういえばフランってさ、手品出来るんだろ？やっつて見せてよ」

フラン「じゃあ妹のマーモンも強制参加で^^」

マーモン「ムム…金をくれるなら」

一同「ツナフリリボマモ（赤ん坊の癖に金を要求したー！？しかも喋れる赤ん坊！？）今更かよ！！」

フラン「…じゃあいいですー…高額ですからー」

マーモン「ムムム…」

フラン「えつとー…種も仕掛けも無い指輪と箱を取り出しますー」

その場にいるリボキャラ（リングとボックス！？）

フラン（マジック用に造って貰ったボックスですー）

フラン「こつやって力を込めるとあら不思議ー、リングに紫の炎が灯りましたー」

一同・リボキヤラ「おおおおー」

フラン「これだけで驚いちゃいけませんよーボックス開匣ですー」

「リアン・クロ・ネッパ」
雲紙吹雪

ミーは紙吹雪のボックスを開匣して、ボックスから紙吹雪を出しましたー

まあ…これでも敵の目晦ましくらいにはなりますからねー

一同・リボキヤラ「おおおおー!!」

光子郎「凄い…」

一同・リボキヤラ「もっとやって!」

フラン「え…（チラ）」

ミーは取りあえずツナ達を見ましたー

フラン「…ネタ合わせですー…ちょっとお待ちくださいー」

席に戻って

フラン「どーしましょー…なんか興味津々な人がいるんですー…後で質問攻めにあわないよーな手品、無いですかー？」

ツナ「え…」

と、こんな感じで目的地に到着

フラン「夏なのに寒いですねー」

光子郎「今年は以上気象らしいですからね…」

フラン「カイロいりますかー？」

ツナ「何故!？」

フラン（もちろん有幻覚ですよー）

ツナ「成る程…」

フラン「よろしければ紅茶もありますよー」

リボーン「エスプレッソはねえのか？」

フラン「んなのありませんよー」

デジキャラ（赤ん坊がエスプレッソって…）

丈「じゃあ自由行動だよ、時間になったら集まるように」

フラン「ミーは中でティータイムですー」

ツナ「俺も!?!」

マーモン「フランが淹れた紅茶は一段と美味しいからね」

フラン「ミーはフランス生まれのフランス育ちですから紅茶にはちよっとうるさいんですよー」

ツナ「だからってこんなに…:」

フラン「ミーは紅茶は一日三杯は飲んでますー」

ツナ「いやいや…だからってこれにはあり過ぎだから…:」

フラン「なんか知らないですけどー、長いキャンプになりそうなんですよー」

ツナ「…? フランの言い草は分からないけど俺はなんか嫌な予感がある…:」

リポーン「ボンゴレの超直感か…:」

マーモン「ムム…雪?」

光子郎「本当だ…降ってきましたね…あれ? パソコンの調子が…:」

フラン「っていつか幾ら以上気象だからって真夏に雪って…:」

ゴオオオオ

ツナ「ええ！？吹雪！？」

フラン「あれー？携帯の調子がー」

そしてしばらくして吹雪が止みましたー

ガラ

太一「やっと止んだみたいだな…」

タケル「わーい！！雪だあ！！すごい！！」

ツナ「まさか積もるなんて…」

ヤマト「おいタケル！！気を付けろ！！」

空「うう…寒いわね…夏とは思えない」

丈「早く大人がいる所へ戻ろう…ここにいっまでもいると(≡≡≡≡)うわぁ…綺麗！！」

パソコン、携帯『ピーピーピー』

光子郎「ダメか…」

フラン「携帯もダメですー」

光子郎「吹雪が止んだら電波が届くと思ったんだけどな…」

フラン「まったくですー」

一同・フラン、光子郎「うわああ」

太一「光子郎！！フラン！！早く来いよ！！」

キラキラ

光子郎、フラン「なっ」

ミィ達が外に出たらオーロラが出てましたー

ミミ「うわぁ…綺麗…ロマンチック」

光子郎「あ、あれは…！」

空「オーロラよ」

太一「初めて見たぜ」

フラン「そりゃあそうですよー…」

タケル「凄いよね…！」

リポーン「これは最早凄いどころじゃねーぞ」

マーモン「ムム…何が起きてるんだ？」

ツナ「うん…」

光子郎「そうですよ！！日本でオーロラなんて！！」

空「そうなんだよね…」

フラン「ですねー」

丈「は、早く大人達のいるキャンプ場に戻らなきゃ…！！」

ヤマト「そうだな…風邪引いちゃつまんねえしな…」

ゴオオオオ

フラン「ん？」

太一「おい…あれ！！」

ビューーン

フラン「え！？」

十一の光りがこっちに向かって来ますー

一同「…！？」

ドカーン ドカーン ドカーン（ry

なんか光りが浮いて来ましたー

…まるでミラー達に受け取ってほしい…って感じで

そしてミーとツナの所には皆と型は同じですが…色違い…

ミーのはクリーム色と緑の模様が入った奴と蒼くて月の模様が入った奴…

ツナのは茶色でピンクの模様が入った奴と紅くて太陽の模様が入った奴ですー

空「何？これ…」

光子郎「ポケベルでも、携帯でもないし…」

リポーン「ツナフラ以外は全員同じデザインか…」

マーモン「ムム…」

あ、因みにリボマモは今ミーとツナの肩に乗ってますよー

ピカー

ザバーン

フラン「へ！？」

ツナ「んなあ！？」

一同「うわあああああ」

続く

標的？ 漂流？冒険の島！（後書き）

結局原作はちょっとしかやんなかった…

因みにリボマモは巻き添えを食らいました

二人のパートナーは多分…デジヴァイスの色で分かったと思います
！！

次回…漂流？冒険の島 続

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3832z/>

デジモン×リボーン ミーとボンゴレデーチモは九人目と十人目の選ばれし子

2011年12月15日01時50分発行